

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400805		
法人名	株式会社成田建設		
事業所名	グループホーム いこいの里 (B棟)		
所在地	青森県五所川原市相内222番地1		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/02/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&li_exvsyoCd=0272400805-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるとおり、当ホームは利用者の皆様に、安心して、楽しく、生き甲斐を持って生活する場を提供することを目指しております。そのため、個人の状態に合わせて、自分の家にいるように楽しく過ごしていただくこと、また、共同生活の中で本人の能力に合った役割を持っていただき、活動の中から生きる喜びを感じられるようにすることで、「いこいの場」を提供できるように努めております。
毎月、技術指導会議を開催し、「高齢者の疾病について学びましょう」についての知識習得のため、勉強しています。
利用者の皆様がより心地良く、安心して過ごせるように、日々、スタッフ間で相談し合い、工夫して対応にあたっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり一緒に楽しく過ごし、家庭的な生活を送れるように支援します」「役割を持つことにより生きがいを感じるができるように配慮します」「第2の我が家として地域と共に安心できる憩いの場を提供します」という地域密着型の理念を大事にし、日々、理念の実現を目指している取り組んでいる。
施設の園庭に、地域行事である「虫送り」を経由してもらおう等、地域との交流を大切にしている。
また、近隣住民から野菜や山菜の差し入れをもらい、利用者と職員が旬の食材を調理したり、食事の準備や片づけ等を行い、役割を持ってもらう等、家庭的な雰囲気大事にしながら、福祉サービスの提供に努めている居心地の良いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は地域密着型サービスの役割を理解し、独自の理念を持ち”地域と共いこいの場の提供”に努めている。理念は朝の申し送りにおいて、利用者の権利や虐待、身体拘束の定義・要件等と共に職員に確認を求めている。職員は理念を理解し、理念に基づいたサービス提供に努めている。	ホーム独自の理念を掲げ、ホーム内に掲示しており、利用者や家族、職員がいつでも目にするようにしている。また、朝の申し送り時にも復唱して、サービス提供の現場に理念を活かせるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は近隣小中学校の行事に参加させていただいており、地元の祭り(虫送り)も当ホームを経由してもらい、利用者にも楽しんでいただいていた。	町内会に加入しており、コロナ禍前は地域の行事に参加したり、地元の行事である「虫送り」もホームを経由してもらい、交流をしていた。また、近隣住民からの山菜や野菜等の差し入れをいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍中は主に在宅介護支援センター等の公的な機関を通して、地域住民の認知症ケアの相談や支援に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議では、外部評価結果や各アンケートの結果について報告し、委員の皆様から意見をいただき、改善に役立てている。コロナ禍から書面開催を継続しており、いただく意見は少なくなったが、それらは日々のサービスの質向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催しており、コロナ禍になり集合での開催が困難なため、メンバーには書面で報告している。また、電話やFAX等で意見をもらい、ホームのサービス向上に反映させるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では市職員、民生委員、利用者家族から意見や助言をいただいている。外部評価確定後はその資料を市の介護福祉課、地元の在宅介護支援センター及び協力先となる病院や特別養護老人ホームにも案内し、当ホームのサービス内容及び評価結果を報告している。また、運営に関する疑問やサービス提供に関する事柄の判断に迷った場合には、市及び各関係機関の担当部署に相談し、助言をいただいている。	運営推進会議に市役所担当課職員がメンバーとして参加しており、ホームの日常等について報告している。コロナ感染の対応についても、市役所からの指示を受け、現場で対応している他、問題が生じた時等は相談し、解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について事務室に「身体拘束の原則禁止」を掲示しており、やむを得ない場合、切迫性、非代替性、一時性において、本人への危険行為、他者への危険行為について家族に理解いただき、同意を得て行うものとしている。基本方針は指針を示して職員に案内している。定期的に委員会を開催し、身体的拘束廃止の取り組みとして、事案の確認及び適正に対応できるように活動している。	身体拘束は行わない姿勢であり、身体拘束に関するマニュアルや同意書、記録の様式を整備して、不穏な利用者には付き添い等の支援を行っている。また、職員は内部研修等で身体拘束の内容や弊害を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを基に、虐待防止できる運営体制を構築している。申し送りの際に、職員に対して高齢者虐待防止関連法の5つの定義(身体的、心理的、経済的、性的、ネグレクト)の確認がなされている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度については、採用の際に新人研修の中で理解を求めている。また、日常生活自立支援事業について、当ホームの利用者が利用されており、社会福祉協議会と協力してサービスの安定利用を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時(前)に時間をかけて次の説明をし、契約している。「地域密着型サービス内容」、「当ホームの理念」、「ホームの重要事項」、「個人情報取り扱い」、「看取り指針」、「運営規程」、また「外部評価の結果」についてもお知らせしている。退居に関する条件や退居時の支援に関しても説明し、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項の説明において、苦情・相談窓口の案内をしている(内部窓口、外部窓口、その他国保連、指定市町村担当部署の公的窓口)。毎年、独自のサービスアンケートを利用者や家族に案内し、意見や苦情を引き出して、思いや要望を把握できるようにしている。アンケート結果は全体会議や運営推進会議で報告し、不足部分に対しては改善を図っている。	相談や苦情の受付については、重要事項説明書に明記し、入居時に説明している他、玄関に意見箱を置き、いつでも意見を出せるようにしている。また、家族の面会時等を利用して、要望を聞くように努めている他、ホーム独自のアンケートを実施し、結果を管理者・職員で共有して、運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月の全体会議を通して、運営状況の報告や職員の意見、提案を聞く機会を設けている。職員との面談で、改善点や提案、希望等を聞いている。その他、ユニット責任者がスタッフの意見を取りまとめて相談し、対応を検討している。勤務シフトについては休日の希望を取り、長期の休暇要望等に応えている。また、異動については、異動日以前に異動ユニットで研修を行い、職員や利用者に負担や影響がないように計画して実施している。	定期的に職員会議を行い、職員は意見を述べることができる他、朝夕の申し送りの時間等、日常的に意見を出せる環境を整えている。また、職員から出された意見は、業務に反映させるように取り組んでおり、職員の異動を行う際は利用者への影響に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は評価制度を導入し、職員の能力に応じた技術等級を設けており、適切な職務への配置や役職登用に活用している。また、職員の資格取得を推奨しており、資格取得の後押しをしているが、資格取得を目指す職員は少ない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度毎に研修計画書を作成し、職員へ研修の受講を促しているが、主流になりつつあるWEBでの外部研修への対応可能な職員が少なく、集合形式への参加は現在拒否感が強い。参加にあたっては受講料の助成や勤務の調整を行い、受講後は報告書を回覧して知識の共有を図っている。また、内部研修として毎月技術指導会議を開催し、認知症及び認知症介護等について知識の習得を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入し、協会が提供する情報や研修を活用している。代表者や管理者の他、一般職員も他のグループホーム職員と交流し、運営やケアに関する意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時には自宅を訪問し、本人の不安や困っている事に対して、納得いくまで聞くようにしている。また、概況調査シートを利用し、情報を共有することで、安心感を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の「困った」「大変だ」「望んでいる事」等、まずは思いを聞くことで、信頼関係が構築されるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「今何を求めているか」要望を聞きながら、他のサービスの情報も提供しつつ、その時点で何が必要かを見極めて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者一人ひとりのレベルを把握し、得意分野を発揮できるように支援している。長年従事した仕事を活かせるよう、スタッフと一緒に食材の下拵えや洗濯物を干している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院状況を「いこいの里便り」等で家族に伝え、支援している。キーパーソンの面会時に本人の体調を伺い、心配事の相談に乗っている。利用者の通院付き添いが可能な時は、受診の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍のため面会は難しく、他ユニットに知り合いがいる場合は玄関にて面会し、交流を図っている。天気の良い日はホームの周りを1周して、ストレスがたまらないように支援に努めている。	利用者の入居前の生活歴を把握しており、これまでの関りを継続できるよう、電話等のお手伝いをしている。また、コロナ禍前は家族からの要望等に応じ、外出や宿泊も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にできる事が少なくなってきた。食材の下拵え等ができる方にはやってもらい、利用者に向けた作業を提供している。作業しながら世間話をして、笑いながら指先を使用して行うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、他の入居先へ家族と一緒に施設見学や申し込みに行ったり、退去先の生活を電話で伺っている。入院され、機能低下されてホームでの生活が難しい方にも、ホームでの生活を望まれる際には希望に沿うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何か手伝いたいと言う時は、野菜を切ってもらったり、選んでもらっている。何か見たいと言う時には踊りのDVDを見て、楽しまれている。	入居前の生活歴を把握しており、利用者や家族からの聞き取りや関係機関から情報提供を受けて、利用者の思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート的生活歴及び入居までの経過を把握し、本人への対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の出来事や身体の調子等、介護記録をとることにより、利用者の日々のケアの改善に努めている。スタッフ同士の情報も共有し、見守りを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。計画書は家族の希望や本人の状態変化により、随時見直している。	定期的カンファレンスを開催し、職員全員で利用者本位に介護計画の検討を行っている。また、介護計画はケアマネジメントの手法に基づき、定期的に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子やケアの実践結果、気づきを介護記録や連絡帳に記入し、トイレ、排泄の記録等を参考に、申し送りや薬の調整を図っている。夜間の不穏状態や独語等の意見の見直しを活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望を聞き、ニーズに対応できるように検討している。毎年、家族にアンケートを行い、要望や意見を伺い、サービスの改善が図られるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前には近所の方に消防訓練参加の協力を得ていた。地域の行事に参加し、地域との関わりを大切にしている。市の地域ケア会議出席の際は、地域資源の活用について認識を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の協力希望を大切に、かかりつけ医に相談して、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前の病院を継続して受診できる他、ホームの協力医院へ、変更することもでき、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のバイタルや入浴前のバイタルサイン、健康管理データを確認し、スタッフと情報交換をして、異常が見られた際にはかかりつけ医の受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際に安心して治療に当たれるよう、家族及び病院関係者との情報交換や相談に努め、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針において事業所の方針を明確にした上で、入居契約時に案内している。家族から重度化した際の希望を伺い、他を希望する際には前もって待機者として特別養護老人ホーム等につなげている。また、協力機関とは「看取り等の協力や約定書」を交わし、協力してもらえ体制を整えている。	入居時に重度化した場合や終末期についての対応を説明し、ホームの方針を明確にしている。また、利用者がホームを退居する時には情報提供を行い、特別養護老人ホームや医療機関等、次の場所へつなぐ支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で地域消防による普通救命講習が中止となったため、自主訓練にて急変時等の対応の訓練・確認を取り、備えている。また、緊急時マニュアルや救急時情報提供書を備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	避難訓練は定期的を実施し、内1回は夜間想定としている。訓練の際には近隣の方々にも協力をお願いし、安全な車いす操作の仕方や誘導方法について訓練していた。また、自主点検として、毎日避難誘導灯や消火器の確認を行っている。消防用設備の法廷点検も適切に行っている。災害対策マニュアルを設置し、災害時に備えている。	定期的に避難訓練を実施している他、設備点検を業者委託で定期的に行っている。また、災害時に備え、食料や水、物品等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りや羞恥心に配慮した対応や声かけを行っている。	利用者は「さん」付けで、利用者や家族が納得した呼び方で呼んでいる。また、利用者の自尊心を傷つけないように、プライバシーに関することは個別に話したり、対応するように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか言葉が出ない場合、動作や表情を見て、待ったり、促す場面を作り、利用者が自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や決まりを優先するのではなく、利用者の意思や体調、ペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、床屋さんに来てもらってカットし、別に家族や本人の希望があれば、美容室での染髪等にも赴いている。入浴後に着る服も選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの裏の畑から野菜を収穫し、食事に提供している。本人の希望に合わせて、食事の提供形態にも工夫している。	利用者の嗜好に配慮し、職員が献立を作成しており、食材の下ごしらえや準備・片付け等、利用者ができる所は職員と一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握し、適量となるように調整を図っている。ヨーグルトや牛乳等、本人や家族の希望があれば、個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄時間を把握し、声がけをしている。また、甘酒の提供等により、薬のみに頼らない排泄の助けも試みている。	個別に排泄の記録を作成して、定時排泄等でトイレでの排泄に取り組んでいる。また、おむつ等の使用についてはカンファレンスで検討し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便チェックを毎日確認している。一定の排便がない場合、便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者の好みの温度で入浴されている。たまに変わり湯でみかんの皮を湯船に入れて、香りを楽しんでいる。	基本的に入浴は週2回行っており、利用者の入浴の好みを聞き、長湯にならないように配慮している。また、できる所は自分で行っていただき、最後に職員が介助するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムに合った生活が送れるよう、その日に応じた活動や昼寝をしていただき、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ同士で声がけし、本人の名前を確認しながら、服用いただいている。介助が必要な方には確実に服用していただくよう、スプーンを利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗面台の掃除や洗濯物のしわ伸ばし、食材の下拵え等、その人にできる手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出を控えているが、感染の危険が低いことが確認できれば、本人と家族の希望により、自宅への外泊にも対応する。	コロナ禍が長くなり、外出が難しい状況ではあるが、感染流行の間を縫って外出支援をしており、利用者から要望があれば、できる範囲で実現できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、本人が直接お金を使う機会はほぼないが、本人が必要とする日用品や嗜好品は家族の了解を得て、代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族や親族と電話で話してもらっている。ただし、施設の電話回線が複数ではないため、通話の時間は短めをお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁等に季節にちなんだ飾り付けをし、春夏秋冬を感じられるように工夫している。温度計を確認しながら、冷暖房で室温を調整している。	ホーム内は感染対応もあり、清潔に保持され、温度や湿度も管理している。季節が感じられるように、季節の花を飾ったり、時期に合わせた展示を行い、居心地良く生活できるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで利用者同士が会話をしたり、テレビを視聴している。活動する際は利用者の身体能力に合わせた行動ができるよう、座る位置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを持ち込んで見ている他、読経や読書を楽しんだり、家族の写真を飾っている。	居室は持ち込みが自由で、在宅時に使用していた物の持ち込みがある。また、居室は利用者に応じて過ごしやすいように工夫しており、職員と一緒に整理・整備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況や認知度に応じて、安全に生活が送れるように工夫している(電動ベッド、車椅子、シルバーカー、移動ボード、表札、手すり等)。		